

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	常に地域の中の事が見える所（地域唯一のスーパーの前）、人通りの多い道路沿いに生活の場としての事業所が存在し、散歩、買物、入浴等で地域の人と交流することが毎日出来る生活を支援している		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	全職員がそれぞれの勤務を通して上記の理念を実践している		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	家族や地域の人はいつでも自由に来所する事ができ、外からも中の生活が見えやすいようにしている。所長が地域の講演や、ヘルパー養成講座でも来所を呼びかけている		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	隣近所の人には気軽に声をかけてくださったり、野菜やお菓子などを持参して立ち寄って下さり、事業所でもおやき、おはぎ、にらせんべいなど沢山作ってお届けしている		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	隣組の組費を払っており、利用者も職員も共同浴場の利用もし、夏祭り、商工際、運動会、音楽会等にも参加している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者と家族に充分説明し納得してもらっている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に自由に自分の思いを誰にでも話せるよう、利用者が話しやすいように心がけている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月家族宛のお便りを発行し、一人ひとりについてお知らせし、来所時は自由に関係書類を見てもらっている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、利用料持参時や来所時は、ゆっくり話し合うように心がけている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に管理者は職員と同じように勤務しながら、いつでも意見や提案を求め、聴くと共に、毎月の職員研修会の機会には全員に求めている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて対応できるよう常に話し合いや調整を行なっている（受診・買物・お花見・誕生会）</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はやむを得ない離職以外は無く、利用者へのダメージはほとんど見られない		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は必要に応じて所長が行い、外部研修は介護福祉士の県、国、ブロック研修には必ず参加している		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修に全職員が参加し、県社協主催の研修者の受け入れも行っており、幅広い交流を行なっている		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	可能な限り職員の希望を受け入れた勤務日とし、気楽に自分の思いを伝えてもらっている		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士の受験を目標に、研修や模試等も気楽に参加できるようにしている。ケア・マネの受験にも協力している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>笑顔を忘れずに可能な限り寄り添い、話しやすいように語りかけ、どんなこともゆっくり、しっかり聴くよう全職員が常に心がけている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話の問い合わせの場合にも、まずしっかり聴き受け止めている。可能な場合は来所して下さるようお願いしている。再度の電話にも前回の内容も受け止めて話している</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相続について相談を受けたときには、民生委員、包括支援センターに相談して「公証人役場」の利用をした</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に本人および家族、関係者に1～2回来所してもらい、可能な限り生活場面を共にしてもらい、納得されるように努力し、その人の好む雰囲気を作るようにしている</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中で、利用者の青春時代、東京の銭湯、製糸工場、軍需工場の生活など教えてもらっている。本人の出来ること(買物、掃除、野菜切り、盛り付け、お茶注ぎ等)一緒にやり、感謝し褒めながら楽しく過ごしている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にも可能な限り来所してもらい、本人の個室での対話や衣類等の確認もしてもらい、食事時やお茶時には共に飲食しながら支えてもらっている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族の一員として安心して居てもらえるよう、必要な情報は提供している。特に家族が来所時の本人のうれしさ等は実感してもらっている。兄妹が母の介護をめぐって対立していたが、米寿祝を共にやらせてもらう中でわだかまりがなくなった		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣や昔の職場、趣味の仲間がいつでも来て下さり、思い出話を楽しんだり戦争中の生活も教えてもらっている		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂や居間で過ごされる時は、その人の好きな人と自然に寄り添ってられ又、自室にも自由に出入りされている		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や自宅でターミナルを過ごされた方には、可能な限り訪問や電話での相談に応じている。本人が死亡された後もボランティアで来所されている家族もあり、面会が可能な方は、退所後も手紙、TEL、訪問もしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの生活暦を把握し、本人がしたいことや出来ることをやってもらっている。古いセーターからクッションを作ったり、散歩や買物、自室の掃除など本人の希望を第一に援助している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ケアプランの際、充分アセスメントしている</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の暮らしの中でどのように過ごされたか記録し、バイタルや排泄、食事の様子、その他気づきを大切に総合的に把握している</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネージャー、管理者を中心に作成し職員全員で検討している。本人はもちろん家族にも確認してもらい意見を求めている</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直しは原則毎月行なうが、毎日職員が記録し変化が生じた場合は、現状に即した新たな計画を作成し対応している(2階 1階への居室の移動、歩行外出 車椅子外出等)</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日関わった職員全員が記録し、気づきや工夫の情報を共有している。必要に応じてケアプランの見直しにも活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人が受診が必要な場合には移送サービスを利用し、家族等と外出希望があるときは自由に参加している。近所の人や知人、会員がいつも訪問してくれる</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>小中学生のボランティアは、毎年来て交流し散歩も共にしている。学校や町の文化祭にも参加している。交番の人との交流や事故防止の紙芝居をもらった</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>宅幼老所「にこにこの湯」には散歩時に立ち寄り、お茶を飲んだり話をしたりしている。敬老会、運動会には参加させてもらっている</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議には地域包括支援センターの所長にも必ず出席していただき、必要な情報やアドバイスを求めて協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医に適切に受診し、投薬を受けたりアドバイスを受けている。通院できないときは往診してもらっている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	中野市の西丸精神科専門医に受診している。通院時には同行し相談、助言を頂いている		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	近くの看護師、保健師に委員になってもらっていて、いつも気軽に訪問して下さりアドバイスしてもらっている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には治療計画や退院予定、面会時の対応指示により早期退院ができた		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一人一人の希望を大切にし、常にかかりつけ医と話し合っている。在宅での終末期を希望された場合は紹介状をお願いし、管理者がご自宅を訪問したりお見舞いしている		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化について家族、本人の希望に添えるよう検討し準備している。今まで自宅2、入院4、特養1、家族が当所に泊まってくださった事例1		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は好みを大切に、職員と一緒に見守りながら納豆づくり、卵を割る、野菜の下ごしらえ、食器の洗浄・拭く・収納、お茶入れ、盛り付け、配膳等		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコは現在楽しめる人はいない。お茶、コーヒー、牛乳、チョコレート、飴、果物と一人ひとり過剰にならないよう楽しんでもらっている		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記入してパターンを知り、トイレ誘導している。夜間はポータブルトイレを使用される人もあり見守りをする。自力が可能な人もトイレの汚れ方等を観察して、異常を早期に発見できるよう支援している		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望により外湯、内湯、にこにこの湯などで入浴している		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベット、布団など本人の希望や習慣を大切に、方向も気持ちよく休息できる方向にするように支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事やお茶の準備・片付け、歌、散歩など本人が役割や楽しみにしていることを支援している		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物、理・美容時は可能な限り本人が支払うようにしている。預かり金は職員が管理するが、希望に応じて所持している(上限1万円)		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、外出は一人ひとりの希望に沿って行なっている。外食、お花見、紅葉狩りと季節や天候に合わせて随時出かけている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族や親戚、知人等からの誘いには体調や希望により外出支援をしている。法事、墓参り、米寿祝い、敬老会		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代筆や代読をしたりして手紙のやり取りを支援している。子供や孫、友達に電話をしたいときは自由に出来るように、自室でも話が出来るよう支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族は可能な限り月1回は利用料を持参してくださる。観光地のため知人、友人等がよく来てくださる。自室や外出、食堂でお茶や食事も共にして下さるよう工夫している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠剤等のドラッグロックはない。居室に鍵は無い。ベット柵は使わない。自由に話せるように話しやすい話題を解るように話している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室は鍵をかけることはない。玄関も夜間のみ(20時～翌日6時)		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員はさりげなく利用者の所在や様子を把握している。ガスやストーブ、切れ物、薬品管理は特に安全に配慮している		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人が上手に使えるものは身近にしている(くし、鏡、めがね)。裁縫用具は見守りで使用してもらえるようにしている		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月の事例検討及び状態の変化に応じ、その都度より良い方法を学び検討し、事故防止に取り組んでいる		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月の事例検討、及び研修時に急変しやすい人や事故発生時に備え学習しているが、定期的な訓練は行っていない		定期的な訓練をする機会を作り努力をする
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	古い木造住宅の2階が居室のため、災害時の避難が一番心配なので地域の人々の協力は常に依頼している。訓練も行っている		転居検討中(来年度)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族が来所時に説明したり、思いを受け止めて職員が可能な対応策を共有している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日8:00~9:00の間にバイタルチェックを一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努めている。気づいた際には速やかに上司又はかかりつけ医、救急車に結び付けている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し、職員は内容の理解もしている。服薬の支援と症状の変化に注意している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の散歩や階段の上り下り、及び水分チェック(1日1000CC)、野菜等繊維の多い食事を工夫している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	三食事ごとに、口腔内の清潔保持のため歯磨きを行なっている。自力可能な方も見守りと確認をしている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は、バランスや季節の食材を常に考え、その日の状態でおかゆや食べやすくするなど工夫している。水分は最低でも1日1000CCを目標にしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿って全職員が学習し実行している(二級ヘルパー講座で学習している)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	事業所前がスーパーであり、常に新鮮で安全な食材が手に入る。調理用具等の衛生管理は二級ヘルパー講座で学び実行している(ふきん、まな板は毎日熱湯消毒している)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を開けたり、縁側からも室内の様子が分かりやすく一般住宅に近いので親しみやすい。上がりかまちには手すりを付けたり、踏み台を置いて上がりやすくしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がこれまで生活してきた空間に近いので、安心して自宅のように居心地よく過ごしている(新しいものはなるべく使わず、季節の花を飾り食材もとりにてを使っている)		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自分の好きなイスや居場所があり、外の人通りやスーパーへの人の出入りを見たり、話をしたり自由に過ごしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室は本人が置きたい物や必要と思うものを自 由に配置して、居心地よく落ち着けるようにしてい る(整理ダンス、亡夫の写真、鏡台、イス、カレ ンダー等)		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	中古の木造民家のため、外気温との差は感じら れない。暑い時は戸や窓を開け、必要に応じ扇風 機を使っている、冬季間は石油暖房機を使用し ている(触れても危険が無い)		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	居室が二階にあるため、可能な限り最低1日に2 回は見守り介助で上り下りしている。(上れない 場合もトイレ誘導や手洗い等歩行の機会を多くす るよう工夫している)		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	箸の上下がわからない場合は上下同じものを使 い、食器の様子がわからない場合は無地のもの を使っている。昔の話や得意の歌を、なるべく毎日 話したり歌ったりしている		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	西側の空き地に草花やミニトマト、きゅうりなど を植え、水やり、採り入れ、食べている。前の庭 は、軒下にイスを出して外と交流したり、鉢植え の草花で季節の変化や成長、開花を楽しんでいる		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・地域で暮らす一つの家として、入居者が今までと同様に尊厳ある普通の暮らしが送れるよう、関係者、職員、家族が一体となって自分が住みたいと思える良質のグループホームを作っていく。